

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(ベトナム)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 極限環境対応グローバル接合部門
特任准教授 勝又美穂子

4回目となるベトナム CIS(カップリングインターンシップ)を、9月18日-10月1日の日程でベトナム(ハノイ及びハイフォン)で開催しました。大阪大学 外国語学部 2名、工学研究科 2名、ハノイ工科大学(HUST)情報工学部 2名、工学部 2名の計8名の学生が参加しました。現地で2日間の事前研修(HUST、ハノイ)を行い、学生主導により、企業の経営理念やコミュニケーション、CIS課題への検討を行いました。また、溶接基礎知識の教育(VTR)についても聴講しました。21日からの休日を除く5日間は、ハイフォンにある IIA [IHI INFRASTRUCTURE ASIA] (橋梁会社、IHIの子会社)で企業実習を実施しました。実習としては、会社説明(方針、組織、業務内容)、生産工程の説明、安全と品質の講習などを受けると共に、実習と橋梁の外注会社の工場見学を行いました。また、IHI が建設した「ニヤタン橋」も視察し、世界でも珍しい形状の橋について、プロジェクトマネージャーから詳しく解説頂きました。今回は事前に提供された「コミュニケーションの課題と対策」からさらに「報連相」に係る課題に絞り込み、2チームに分かれた学生が取り組みました。企業の経営

者やスタッフとのインタビューなども踏まえて、本課題への考察を深めました。最終日の9月30日には HUST(ハノイ)で、最終報告会を開催し、IIAの山本社長、福岡工場長、HUSTのHanh 溶接学科長、日本大使館田中書記官、阪大の友友特任講師、清水准教授、勝又特任准教授ら計16名の参加があり、活発な質疑応答がありました。学生からは実習中に作成した「報連相」に係るベトナム語のテキスト、及び報連相をより多角的に理解するゲームが企業へ提供されました。山本社長からは、学生の提案についてすぐにも社内で実行されたいとのコメントがあり、そのための更なる提案が求められるなど、実質的な討議が行われました。また、日本大使館の田中書記官からは各種行われているインターンシップの中でも特にユニークであり、学生の学びが多いとのコメントがあり、本活動についてはより積極的な広報を行うべきとの提案がありました。連携大学及び IIA 社員の全面的な協力により、学生はグローバル環境での業務や課題について深く学びました。この経験を活かし、今後の活躍を期待します。

